

腎臓病教室 ～立ち上げから今後の課題について～

医療社会事業部	伊藤 裕子	池田 美沙
内科	久保田英司	
看護部	望月見奈子	森 由理子
薬剤部	神谷 令子	森 仁美
検査部	赤坂寿美子	原 毅
	黒山 祥文	宇賀田章乃

I. はじめに

わが国の慢性腎臓病（CKD）患者は1,330万人に達しており、年々増加している。CKDの進展により透析の導入や心血管疾患の危険性が高くなるが、適切な治療によりその進展は抑制できるようになってきた。当院でも、年々患者は増加傾向を示しているため、これに合わせ、腎臓病教室を立ち上げたのでその現状と問題点を明らかにし、今後の課題を明確にする。

II. 当院の現状

以前当院では、CKDの患者に対して腎臓内科看護師と管理栄養士が継続的に指導・相談に当たってきたが、病院システムの変更や指導件数・1件当りの指導時間の増加により患者の支援が難しくなり、医師の負担が大きくなってきた。また、以前から患者より腎臓について勉強をしたいとの要望があった。これらの問題を解決するため、腎臓病教室を立ち上げることにした。

III. 目的

CKDについての基本的な知識の確保とCKDは、適切な治療によりその進展を遅らせることが可能であることを患者に認識させ、長期療養生活の継続への動機付けをする。

IV. 腎臓病教室の内容

第1回 腎臓の働きについて（医師・看護師）

第2回 検査の見方について

薬について（臨床検査技師・薬剤師）

第3回 食事療法について

日常生活の注意（管理栄養士・看護師）

月1回第4火曜日に別館4階第1会議室にて実施

V. 腎臓病教室の問題点

現在実施している腎臓病教室の内容が、患者のニーズにあっているのか、また得られた知識が療養生活に役立っているのか不明であるため明確にする必要がある。また、教室の内容についても随時検討し充実させ、今後透析について・公的支援などについても説明を加える必要があると考える。

VI. 今後の展望

患者の病態認識の個々のニーズを確認するためアンケートを実施し、教室内容の再検討をしてより充実したものにしていきたいと考える。

また早期に患者介入をするため、病院全体への広報活動と、共通認識の確立をしていく必要がある。